生命を次代につなぐ意識啓発事業

高等学校家庭科指導事例集

平成２８年３月

山形県教育委員会

はじめに

近年、子供を取り巻く環境は、少子高齢化や核家族化の進行などにより大きく変化し、家庭や地域の教育力の低下も指摘されています。このような社会の変化に対応するため、県教育委員会では、「人間力に満ちあふれ、山形の未来をひらく人づくり」を基本目標とし、「『いのち』をつなぐ人」「学び続ける人」「地域とつながる人」の３つの人間像を目指した「第６次山形県教育振興計画」を策定しました。特に「『いのち』をつなぐ人」に関わる施策においては、「いのち」を大切にし、生命や生き方をつなぐ教育を推進します。これからは、自分が受け継いだ大切な生命を、次世代につないでいくことの意味を知り、どうつないでいくかを学ぶ、生命の縦糸をしっかりと次の世代に伝えていく教育が求められます。

そこで本事業では、高校生に生命継承の重要性を実感させるとともに、多様な生き方を学び次代の親世代となった時の自身の在り方を考えさせることをねらいとした指導事例集を作成いたしました。また、家庭科の指導を行うにあたって、高校生の意識調査や授業実践事例、授業展開例、参考となる資料・データ等もあわせて収録いたしました。

なお、この事業に際して、山形大学名誉教授・県男女共同参画センターチェリア館長　高木直氏、県福祉相談センター地域指導主幹　五十嵐哲朗氏、天童市健康福祉部健康課副主幹母子保健係長　瀬野真紀子氏、東根市子育て健康課子育て支援係長　高橋真伊子氏より、男女共同参画、児童福祉、母子保健、子育て支援等について貴重なご意見をいただきました。さらに、県内各高等学校より、実践事例の提供、意識調査への協力をいただきました。深く感謝申し上げます。

各学校において本事例集が積極的に活用され、家庭科教育の一層の充実が図られることを心から期待しております。

平成２８年３月

山形県教育庁

高校教育課長　石川　真澄

生命を次代につなぐ意識啓発事業

高等学校家庭科指導事例集

目　次

はじめに

コラム　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

本事例集作成の趣旨と活用のポイント　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

第１章　県内高校生の意識調査の結果と考察　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6

第２章　県内高等学校の実践から～乳幼児触れ合い体験の指導～

乳幼児触れ合い体験学習のためのポイント　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　20

【事例その１】認定こども園への生徒の訪問　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　22

普通科２、３年「子どもの発達と保育」選択者

【事例その２】学校に親子を招いての交流～市子育て支援センターとの連携～・・　24

普通科２年「家庭総合」

【事例その３】学校に親子を招いての交流～ＮＰＯ法人との連携～　・・・・・・　26

普通科１年「家庭基礎」

第３章　県内高等学校の実践から～人の一生を考える～

【事例その１】ライフプラン　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　30

「わたしのあゆみプラン～人生設計について～」

【事例その２】家庭を築くことの重要性　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　34

「人生の課題を家族と共に乗り越える～家族劇～」

【事例その３】ライフスタイル①　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　39

「自分らしく生きる」

【事例その４】ライフスタイル②　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　41

「様々なライフスタイルを考えよう～仕事と家庭の両立を目指して～」

各事例のポイント　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　43

第４章　生徒の意識を育む授業展開例

Ⅰ．生活設計とワーク・ライフ・バランス　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
「これからの家庭生活と社会～山形県の様々な取組みから考えよう～」
Ⅱ．男女が協力して家庭・社会を築くことの重要性　・・・・・・・・・・・・・ 50
「男女が共に生きる～県内高校生の『結婚・子育て・仕事等』についての意識調査を活用して～」
Ⅲ．親や家族の役割・子供との関わり方　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52
「子育てにおける保護者の役割と保育の重要性を考える」
Ⅳ．子育て環境と子育て支援　①　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
「地域の子育て環境について考える」
Ⅴ．子育て環境と子育て支援　②　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58
「子供を生み育てる意義や子育てを支えるために社会に求められる支援とは何か考える」
各事例のポイント　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66

参考資料

１．人口に関すること　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 70
２．結婚等に関すること　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 73
３．妊娠・出産に関すること　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 75
４．労働に関すること　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 76
５．保育関係施設に関すること　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 80
６．子育てを取り巻く環境における「山形らしさ」に関すること・・・・・・・ 81
７．子育て支援・環境に関すること　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 84
８．企業における取組に関すること　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 86
９．児童虐待に関すること　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 89
１０．その他　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 89

本事例集に係る各内容の小中高等学校の関連・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 93

コラム

「男女共同参画と家庭科」

山形大学名誉教授
山形県男女共同参画センターチェリア館長　　高木　直

家庭科の男女共修は平成元年（1989 年）の学習指導要領改訂によって実現し、全面実施の 1994 年から 20 年以上が経過しました。男女共修が実現した背景には、なんといっても女子差別撤廃条約の批准に伴い男女同一の教育課程を制度として確保することにあったといえます。

したがって、それまでの女子教育としての家庭科から大きく転換し、性別に関わらず、一人ひとりが私的な生活を充実させるための知識や能力を身につけることに重点が置かれるようになりました。つまり健康で安全、かつ充実した生活ができるように、私的領域の生活に直結する社会の様々な課題を把握し課題解決に向けて行動していく、そのためには生活の自立に必要なスキルを獲得したり、世代間のコミュニケーションスキルを身につけたり、生活文化の継承などを大切にしていかなければなりません。いま、社会で問題となっている企業での男女間賃金格差や各処遇、保育所不足、介護離職、DV 等々は、固定的な性別役割分業意識やそれに基づく制度や慣行が起因していることが否めません。

世界経済フォーラムの発表によると、我が国のジェンダーギャップは 145 カ国中 101 位です（2015 年）。家庭科はその学習内容の特徴から直接にも間接にも男女共同参画の視点が欠かせませんし、直接生徒に考えさせることができる教科です。我が国はもちろん、世界的にも最重要課題である男女共同参画を家庭科から切り拓いていって欲しいものです。

「山形県における児童相談の状況について」

山形県福祉相談センター地域指導主幹　五十嵐哲朗

児童福祉に関する相談については、児童福祉法の改正により、平成１７年度からは、日常的な相談については市町村で、専門的な知識・技術を必要とするものについては児童相談所で受けることとなりました。これに伴い、市町村の相談支援体制強化のため「要保護児童対策地域協議会」を市町村ごとに設置し、関係機関が連携していく仕組みもできました。山形県内ではすべての市町村で「要保護児童対策地域協議会」が設置されています。

児童相談所は、山形県内には、内陸地区を管轄する山形県福祉相談センター（山形県中央児童相談所）と、庄内地区を管轄する山形県庄内児童相談所の２カ所設置されています。

平成２６年度に児童相談所で受付けた相談は２，０６６件で、電話相談を除く

と１，５６３件となります。このうち半数近くの８４１件については、療育手帳判定などの障がい相談となっています。つぎに多いのが児童虐待相談です。平成２６年度の児童相談所と市町村をあわせた山形県内の児童虐待相談の認定件数は４０３件でした。

児童虐待までには至らなくても、様々な理由で子育てに関する不安や困難を抱えている家庭は、それ以上に多くあるものと考えられます。児童虐待を早期に発見し対応することはもちろん大切ですが、児童虐待の発生予防という観点からも、より身近なところで子育てに対する支援が受けられるような仕組みづくりが求められているといえます。

「天童市におけるふれあい体験学習について」

天童市健康福祉部健康課副主幹（兼）母子保健係長　瀬野真紀子

近年、核家族化や地域のつながりの希薄化などにより、地域で妊産婦や赤ちゃんと関わることがないまま、親になる人が増えています。そのため、今までは自然と学んでいた赤ちゃんとの関わり方がわからないため、子育てに悩む人が増えている現状です。

このようなことから天童市では、平成４年度から県立天童高等学校の生徒を対象に「ふれあい体験学習」を実施しています。市で行われる乳幼児健診や健康相談時に、会場に来た母親から赤ちゃんが生まれた時の気持ちや、子育て中に感じていることなどを話していただき、生徒自身が改めていのちの尊さや、子育ての楽しさと大変さを考える機会としています。

参加した生徒の感想として、アンケートの中から「子育ては楽しそうだ」「子育ては大変そうだけど、楽しそうだ。」と答えた生徒が、全体の約９割いました。実際会場で「赤ちゃんかわいい。」「子育て＝大変というイメージから『楽しい』ものにかわった。」という声が聞かれています。

天童市では、未来の子育てを担う高校生に、この「ふれあい体験学習」をとおして、子育てといのちの大切さを考える機会を提供するとともに、安心して妊娠・出産・育児のできる優しい街づくりを目指していきます。

～ふれあい体験学習～

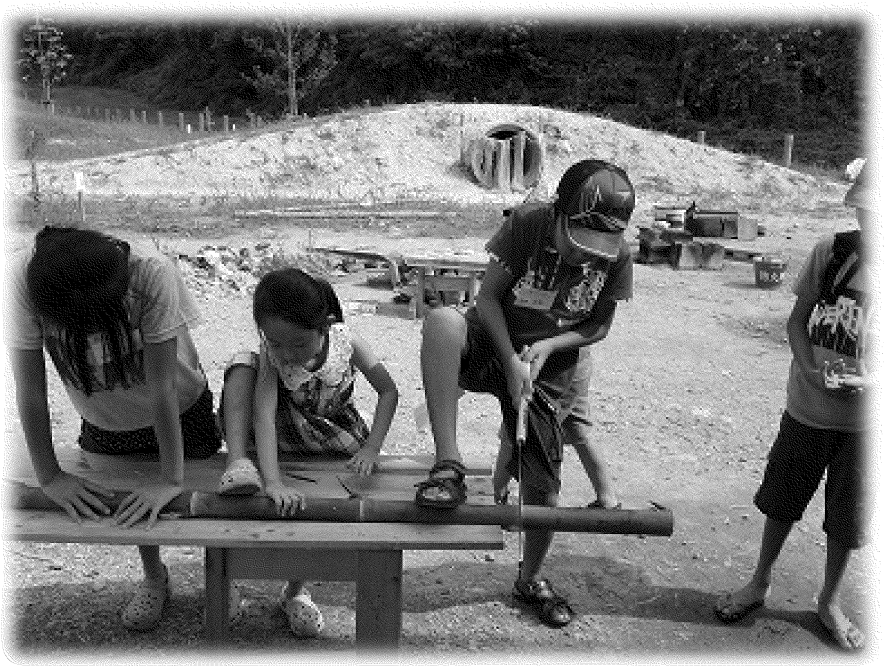
「遊育（ゆういく）と共育（ともいく）」

東根市健康福祉部子育て健康課子育て支援係長　　高橋真伊子

子育て支援制度は、少子化や女性の活躍促進といった社会的背景により、年々拡充しています。例えば、妊婦健診や小さい子どもの医療は、多くの自治体では無料で受けられますし、保育所や学童保育所の整備も進んでいます。

東根市では、子育て支援の大きな柱として、遊育（ゆういく）と共育（ともいく）を掲げています。親の経済的な負担軽減や施設の整備ももちろん重要ではありますが、最も大切なことは、子ども達が健全に成長できることです。

近年、子ども達が日暮れまで群れをなして遊ぶ姿は、すっかり見られなくなってしまいました。また、親の中には、兄弟姉妹が減少し、地域や親族とのつながりが希薄になりつつある中で育った世代も多く、子育ての孤立化も問題になっています。このような時代だからこそ、子ども達が伸び伸びと四季を感じながら自由に過ごすことができ、豊かな遊びから学ぶことができる場を！という思いで、「ひがしねあそびあランド」を整備しました。ひがしねあそびあランドでは、さくらんぼタントクルセンターとともに、子どもの心は遊びで育つという遊育や、多様な人材や地域との連携による共育を日々実践していますが、こういった理念は、なかなか一朝一夕に普及するものではありません。遊育と共育が、保護者、地域、児童福祉施設や学校、行政といった子ども・子育てを取り巻く人や環境に少しずつ広がり、全ての子育て支援策に浸透していくことを目指し、息の長い取組みが大切だと考えています。



子ども達の「やってみたい！」という気持ちを大切に
～ひがしねあそびあランド～

本事例集作成の趣旨と活用のポイント

◆第６次山形県教育振興計画における位置づけ

基本方針Ⅰ　「いのち」を大切にし、生命をつなぐ教育を推進する
主要施策３　生命の継承の大切さに関する教育の推進
主な取組み　③次代の親としての意識の醸成

次代の親となる者として、自らのライフデザインを考える機会を持つとともに、結婚・出産・子育てや家庭教育の大切さなどを学ぶ活動を展開していく必要があります。次代の親とは、親として我が子を育てる立場だけでなく、専門的職業として子供を育てる立場や、社会の一員として子育て支援や子育て環境の整備に関わる立場等も含まれます。

本事例集は、高校生が子供の成長のために親や家族が果たす役割について理解するとともに、将来の自分の在り方を考え、次代の親として自覚が持てるよう、家庭科の授業の一部（「人の一生と家族・家庭」「子どもの発達と保育・福祉」「生涯の生活設計」等）に本県独自の教材を取り入れることを目的に、以下の活用方法を想定して作成しました。

この事例集は次の４章及び参考資料により構成されています。
第１章　県内高校生の意識調査の結果と考察
第２章　県内高等学校の実践から～乳幼児触れ合い体験の指導～
第３章　県内高等学校の実践から～人の一生を考える～
第４章　生徒の意識を育む授業展開例
参考資料（山形県における結婚・子育て・仕事等についての資料・データ）

「第１章　県内高校生の意識調査の結果と考察」について

卒業後の進路・高校生の結婚観及び結婚に対するイメージ・将来欲しい子供の人数及び子供を持つことのイメージ・乳幼児はかわいいと思うか及び乳幼児と接する機会があるか・高校生のライフスタイルと仕事に対しての考え方・家庭科の学習内容の中で興味があるもの、について県内高校生に意識調査を行いました。

乳幼児と触れ合う機会がないと答えている生徒もおり、第２章の乳幼児触れ合い体験学習に結びつけることもできます。また、回答に男女差があった項目を取り上げ、男女間の意識の差が家庭・社会に影響を及ぼしていることについて考えさせるような授業展開もできます。

「第２章　県内高等学校の実践から～乳幼児触れ合い体験の指導～」について

認定こども園へ生徒が訪問する場合、学校に親子を招いての交流をする場合についての指導事例を掲載しました。また、乳幼児触れ合い体験の意義や乳幼児触れ合い体験を始める前のポイントをまとめましたので、乳幼児触れ合い体験等、実践的・体験的な学習活動を取り入れる際の参考にしてください。

「第３章　県内高等学校の実践から～人の一生を考える～」について

県内の高等学校で実践されている事例を掲載しました。「ライフプラン」「家庭を築くことの重要性」「ライフスタイル」について、簡単な授業の流れ及びワークシートが掲載されています。ワークシートはそのままコピーまたは県教育センターの Web ページからダウンロードして利用することができます。各校の実情に応じて、アレンジしたりしながら、部分的に活用することもできます。

「第４章　生徒の意識を育む授業展開例」について

「生活設計とワーク・ライフ・バランス」「男女が協力して家庭・社会を築くことの重要性」「親や家族の役割・子供との関わり方」「子育て環境と子育て支援」について、それぞれ学習指導案及びワークシートや資料などで構成されています。第１章の意識調査質問項目１７で、家庭の学習で興味があるものについて回答が多かった「働くことと生活の自立」「多様なライフスタイル」「ライフプランを立てる」といった自分の将来に関わる内容や、「子供との関わり方」といった乳幼児に関わる内容についての授業展開例を掲載しています。「親や家族の役割」については高校生にとってイメージしにくい内容のためか関心が低いようでしたが、社会の一員として親や家族の役割についても理解を深めていく必要があると考え、授業展開例を作成しました。

事例はそれぞれ、１～２時間で展開されており、ワークシートや資料は Ａ４にまとめられていますので、そのままコピーまたは県教育センターの Web ページからダウンロードして利用することができます。各校の実情に応じて、アレンジしたりしながら、部分的に活用することもできます。

本事業のねらいをふまえ、今後の指導を充実させていくための授業展開例として提案します。

「参考資料」について

１．人口に関すること
２．結婚等に関すること
３．妊娠・出産に関すること
４．労働に関すること
５．保育関係施設に関すること
６．子育てを取り巻く環境における「山形らしさ」に関すること
７．子育て支援・環境に関すること
８．企業における取組に関すること
９．児童虐待に関すること
１０．その他

について、資料・データが掲載されています。必要に応じてそのままコピーまたは県教育センターの Web ページからダウンロードして利用することができます。

〈本事例集掲載 URL〉

山形県教育センター　http://www.yamagata-c.ed.jp/